

本人が物語風に綴る闘病記

44歳で甲状腺がんと中咽頭がんが見つかりましたが、
中2の娘が「大したことないやん」と言うので。

著：原 利彦（1972年 生まれ）



甲状腺がん 手術編 023：あり得たこと。

2017年4月7日（金）

翌朝、トキは昨晚の騒動について、看護師に尋ねました。すると看護師は…

「お熱を出されてですね、急遽、お部屋を変わっていただいたんですよ。」

それを聞いて、トキは、勝手に色んなことを想像しました。



夕方になり、トモとウタが六花亭のバターサンドを持って来てくれました。実は、トキの好物なのです。トキは嬉しそうに、ゆっくり、ゆっくり食べました。

三人の会話は北九州市にある、スペースワールドが今年いっぱい閉園するという話で盛り上がりました。

家族そろって行ったことはありません。

そこで、トキが「閉園前に行きたいね」と言うと、

ウタが…「その体で？」と、冷静に言いました。

それを聞いたトモが笑いました。まるで家にいるかのような穏やかな、ひと時でした。

2017年4月9日（日）

トキの姉夫婦が見舞いに来ました。トキは病室には通さず、1階のカフェで会いました。心配させまいと、喋りまくるトキに対して、姉夫婦は聞き役に徹してくれました。気が付けば、トキは同じことを何度も話していました…

絶対に、あり得ないと思っていたことが、あり得るということ。

2017年4月10日（月）

朝8時にU先生の診察がありました。手先のしびれと手術痕の確認をしたところ、

「特に問題ありません。

朝食を食べて薬飲んだら以上です。事務的な手続きが済めば退院されていいですよ」と、

何となく事務的なお互いでした。

それもそうです、トキは直ぐに外来で、U先生に会うことになっています。その後も少なくとも10年以上のお付き合いになる予定です。よって、ここでは特に「ありがとうございました。お世話になりました！」という完結的な言葉のやり取りはありませんでした。そもそも、退院すると言っても、

完治したわけではなく、手術が終わっただけなのです。



迎えに来てくれたトモは、トキの食事の心配をしていました。当分は、出来るだけ柔らかいものを準備しなければなりません。また、いわゆる「免疫力アップ」と言われる食事への意識も必要になります。今日は通過点であり、新たなスタートでもあります。とりあえず、退院です。トキは13日ぶりに病院の外の空気を吸いました。

⇒ 024：神様たちに頼んだこと。